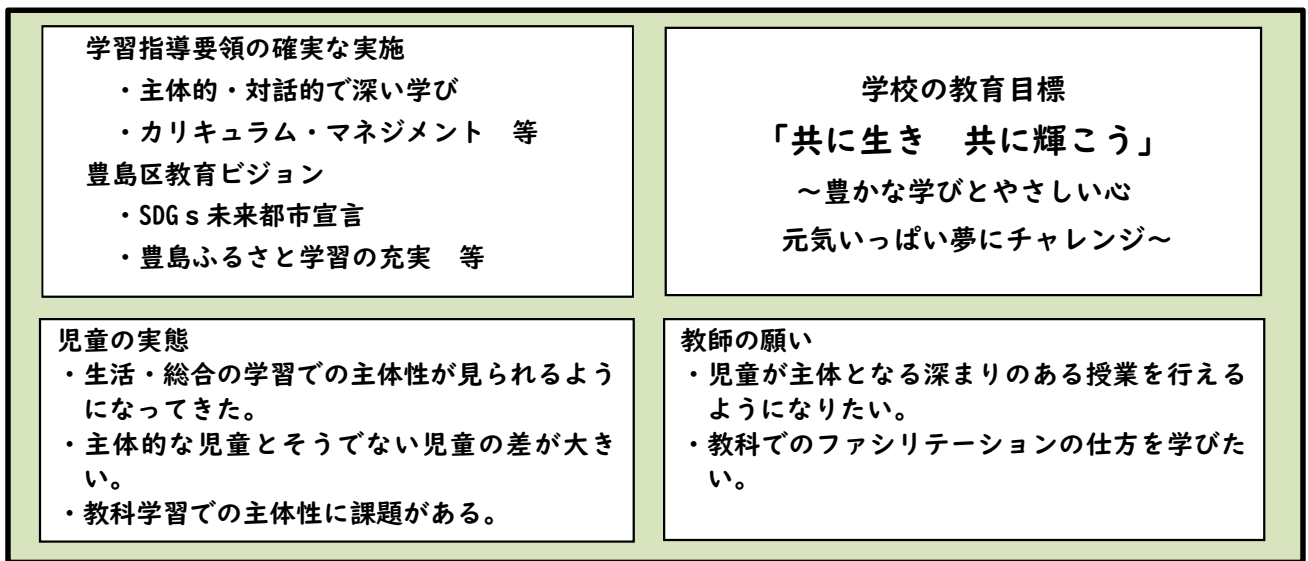


1 研究構想図



研究主題設定の理由

児童がすすんで学びに向かうためには、児童自身が「問い」をもつことが重要である。また、「問い」を「問い」のままで終わらせず、児童同士で共有し、探究的・協働的に解決していくために、協働学習の中心である「対話」に焦点を当て、主体的に学びを深め練り上げる児童を育成することを目指し、本研究主題を設定した。

さらに、副主題には、前年度まで行ってきた児童を信じて、「児童に任せる」というファシリテーターのスタンスを取り入れ、児童の主体的な学びを生み出すことを意識した手だてを行っていくことを示した。

昨年度からの研究の流れ

昨年度まで行ってきた生活科・総合的な学習の時間を中心とした児童の主体性を高める探究的な学習の研究では、地域の材を生かすことと、教師がファシリテーターになることで、一定の成果を上げることができた。今後はこの研究成果を各教科の学習に広げ、児童の主体的に学ぶ力を高める授業改善を行っていくことが必要である。

研究主題

自分自身の問いを「対話」で深め練り上げる児童の育成

～学びを生み出すファシリテーションの工夫～

研究仮説

教師が、学びを生み出すファシリテーションの工夫を行っていけば、
自分自身の問いを「対話」で深め、練り上げる児童の育成することができるだろう。

研究の手だて

ファシリテーションの工夫

研究授業の視点	① 児童の問いを生み出せていたか。	② 「対話」を深め練り上げられていたか。	③ 学年独自の視点
---------	-------------------	----------------------	-----------